

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第38号



新年、おめでとうございます。2014年午年となりました。去年は、あまちゃん、アベノミクス、半沢直樹などが流行語でしたが、今年はどうのような年になるのでしょうか。尖閣諸島の問題や、北朝鮮の動向など、心配なこともあります。まずは穏やかな一年であってほしいと願っています。本年も、なにとぞ、宜しくお願い申し上げます。

和み、ユーモア

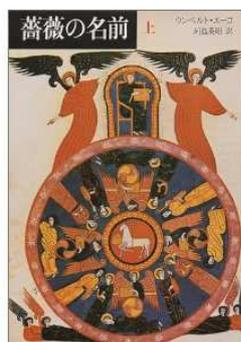
年初ということで、この話題としたいと思います。昨年末に、ネットで配信されたニュースを見ていて「カピバラ温泉」というのが出ていたのですが、このカピバラの表情が絶妙で、竹の樋からの打たせ湯をしているところも、「うー、気持ちいいねえ」なんて言いそうな感じでした。我が家では、ヒポ(ヒポポタマス:かば)に続いて、第一期カピバラブームがあり、このカピバラ温泉でまた、プチブームになりました。

カピバラ温泉で検索すると、ゆず湯をしていたり、湯船に並んで入っていたりと、沢山の面白い画像がありました。カピバラは温泉が好きなのでしょうね。カピバラは、もともと、南米のアマゾン川流域の生き物ということで、温暖な気候で過ごしていたようです。日本の動物園に連れてこられて、冬の寒さに凍えていたところ、温泉というアマゾン川の気持ちよい水辺の生活を思い出させるものを見つけて、和んでいるのでしょう。カピバラは世界最大のネズミの仲間と言われているのですが、草食性で性格も穏やかなようです。性格が表情に現れていますね。

さて、和み、笑い、ユーモアに関する本があればと常々思っていますが、良い本をご存知の方はありませんか。古くはアリストテレスの『詩学』の中にも、冗談や笑いに関して考察した部分が含まれていたようなのですが、現存の詩学には記述が見当たらないので、散逸したと考えられています。

失われた笑いの本ということで、ここで思いあつたのは、ウンベルト・エーコの『薔薇の名前』という小説です。ショーン・コネリー主演で映画にもなっていますね。ご覧になった方も多いかと思いますが。この小説は中世の修道院が舞台で、独特の雰囲気をもったものです。中世の修道院ではスコラ哲学が主流でした。そして、スコラ哲学はアリストテレス哲学が下敷きとなっているので、『薔薇の名前』の中で論争となった、この笑いの書物とは、失われた、アリストテレスの詩学の断片なのではないかと想像しています。

和み、ユーモアということで、話を進めてきましたが、日本のお正月番組と言えば、お笑い番組です。一年間、笑いを大切にして過ごそうということですね。ギャグも悪くはないのですが、カピバラの和みも思い浮かべながら、この一年間を過ごせれば良いなあと思っています。

ウンベルト・エーコ
『薔薇の名前』

カピバラのマスコット



伊豆シャボテン公園のカピバラ



毎日新聞 2013年12月14日

膵癌に対するFOLFIRINOX療法について

2013年12月20日に、膵癌に対する、FOLFIRINOX療法が承認されました。かなり、強度の強い化学療法であり、本療法の適正使用に関して、製薬メーカー、日本臨床腫瘍学会を通じて、注意喚起もされていますが、膵癌の領域に一つ選択肢が増えたことは朗報と言えると思います。

恐らくこの治療が適する方、そうでない方が分かれてくると思われ、膵癌の化学療法に関しては、レジメンの使い分けの時代に入ったと言えるでしょう。

項目	適正使用	慎重投与	投与禁忌
ECOG Performance Status (PS)	○ 0-1		× 2以上 (全身状態が悪化している患者)
年齢	○ 65歳未満	△ 65歳以上	
骨髄機能	好中球数 (/mm ³)	1サイクル目	× 2,000未満
		2サイクル目以降	× 1,500未満
	血小板数 (/mm ³)	1サイクル目	× 10万未満
		2サイクル目以降	× 7.5万未満
総ビリルビン値(mg/dL) / 黄疸	○ ULN ^(注1) 以下かつ黄疸を認めない	△ ULN超~ ULN×1.5以下かつ黄疸を認めない	× ULN×1.5超 × 黄疸を認める
下痢(水様便を含む)	○ 認めない		× 認める
UGT1A1遺伝子多型: ホモ(UGT1A1*6/*6, UGT1A1*28/*28) 又はタプルヘテロ(UGT1A1*6/*28) 接合体	○ もたない	△ もつ ^(注2)	

コマの今昔

お正月ということで、コマの画像を探していたのですが、今のコマは、カラフルで華奢ですね。私が子供の頃に遊んでいた完全に鉄製のコマ・・・鉄ゴマというらしい・・・、ネットで検索しても画像すらありませんでした。生産中止なのかもしれません。

鉄輪ゴマというのは、昔もありましたが、今ではマイナーな存在のようです。もっと重量感のあるどんぐりコマに鉄の箍を打ったようなのに至っては探してもないですね。これは普通には片手で投げて回せないコマで、コマひもを二重にして両手で広げる形にして回していたと思うのですが、日本から消滅したのかもしれませんが。大変重いコマなので、5分間以上回るような、コマとしては優れたものなのですが。

危険なものということで、知らないうちに日常生活から取り払われたということでしょうか。昔も、人に当たったら大変だとは思っていましたが、危険を察知しながら遊ぶということも、実は重要な気がします。そもそも、今では(テレビ)ゲームの方が主流で、子供がコマで遊んでいるのかも疑問なので、実は、大人が郷愁をもって、冬の風物詩として買い与えているののかもしれませんね。



鉄輪コマ

MEMO

1月のがん化学療法科の予定

- 1月1日 元日、良い一年でありますように。
- 1月2日 外来化学療法を行います
- 1月6日 仕事始め
- 1月7日 七草粥
- 1月10日 柴田教授外来
- 1月13日 成人の日
- 1月17日 新渡戸稲造記念 メディカル・カフェ
- 1月24日 柴田教授外来

